

福 山

欧州3カ国で英語能

福山市光南町の喜多流大島能楽堂を拠点とする能楽師大島衣恵さん(35)と輝久さん(33)が2日、ロンドンなど欧州3カ国4都市で、全編が英語による新作能「パゴダ(仏塔)」の公演をスタートさせた。米国人メンバーとの共演で、初の英語能に挑む。

(伊藤敬子)



東京の国立能楽堂で米国人共演者らと「パゴダ」のけいこをする衣恵さん(左から2人目)

喜多流大島さん 新作「パゴダ」

せりふに音符 成果の舞



大島衣恵さん

新作能の原作者は中国系英国人の作家ジャネット・チヨンさん(58)。2007年11月に大島能楽堂で定期公演を鑑賞した縁から「もうしても大島家に演じてほしい」とラフコール。ミュージカル用に書き上げた脚本を解体し、米国人の能楽研究家リチャード・エマート武蔵野大教授(60)の協力で能の台本に仕立て直した。凶作に襲われた中国の小さな村で、幼い息子の命を守るため外国

人に預けたチヨンさんの祖母が作品のモデル。水牛の毛を三つ編みにした形見の腕輪を手掛かりに、時代を超えて家族が再会し、親子の愛情ときずなを確認する物語だ。上演は約90分。衣恵さんが主人公の美鈴、輝久さんが息子を演じる。

「日本語で能に挑戦する海外の人々の努力を知るだけに、できないとは言いたくなくかつ」と衣恵さん。せりふに音符記号で節を付けた「謡い本」が完成したのは8月。舞の型付けを考えながら、慣れない英語を覚えた。父政允さん(67)、母泰子さん(64)らとともに11月26日、英国へ出発した。2、10日にロンドン、オックスフォード、ダブリン、パリで計9回の公演を予定。世阿弥原作の古典「清経」と合わせて上演し、新旧の能作品を披露する。

衣恵さんは「イタリア生まれのオペラが世界で上演されるように、国や言語の違いを超えて人間に訴える力がある能楽の可能性を広げたい」と意気込む。

英語の謡に音符記号で節を付けた英語能「パゴダ」の台本

(SATB)

1st
I'm by your side by
2nd
I'm by your side
3rd
I'm by your side
4th
I'm by your side

back